

「自殺」イメージ変える

白浜・三段壁「恋人の聖地」 東尋坊絶景バー 樹海神秘さ売りに

自殺対策に悩み続けてきた景勝地が、そのイメージをぬぐい去り、地元で自ら命を絶つ人を減らす試みを進めている。ただ、自殺そのものを減らすことにつながるのだろうか、支援者らは不安も募らせている。

〈重大な決断をするまえに一度是非ご相談下さい〉
和歌山県白浜町の名勝「三段壁」で今年9月、高さ約50メートルの三段壁から、こんな文章の看板1枚が撤去された。相談先として白浜バプテストキリスト教会の電話番号が記された看板5枚のうち、海に最も近い1枚だ。町が教会と話し合い、目立たない裏道に移した。県警白浜署によると近年、周辺で身投げしたとみられる遺体の数は2008

人の聖地」に選定された。町はさらにハート形メニューメントの設置やイベント開催などを計画している。

さん(49)は「『ここは自殺の名所』と触れ回るようなものはなくすべきだ。生まれ育った三段を自殺場所に選んで欲しくない」と町の取り組みを歓迎する。

れた人と共同生活を送る教会の牧師、藤敷庸一さん(44)は行き先を変え、別の土地で亡くなる人が増えるのを恐れる。「三段壁なら救えた命を失うかもしれない」と思うからだ。

1月に保護された堺市の男性(73)も「看板を見ていなかったら、今の世にはいない」と振り返る。

や家族連れが訪れた。さらに、スマホゲーム「ポケモンGO」で珍しいポケモンを探しに若者も多くやってくるようになった。

看板撤去に賛否

地元町内会長の川口雅章

「恋人の聖地」としてイメージ向上を図る現在の三段壁

保護した人半減

04年から見回りや保護活動を続けるNPO法人「心に響く文集・編集局」の茂幸雄理事長(72)は「人気のない場所がなくなり、見違えるほど良くなった」と話す。



ほかでも模索は続く。「日本の夕陽百選」に選ばれている福井県坂井市の東尋坊では、7月末にカフェが開店。9〜10月には岩場でカクテルを楽しむバー「東尋坊夕陽ハートカクテル」が設けられ、カップル

特定地域の予防で終わらずに

精神科医の高橋祥友・筑波大教授(災害・地域精神医学)の話 「自殺の名所」を大々的に報じること

で、自殺する恐れの高い人々がその場に引き付けられる「群発自殺」という現象が知られている。明るいイ

メージを取り上げれば、予防効果をもたらす可能性はある。ただ、死に追いやられる人々が抱える本質的な問題に光が当てられないままでは、特定の地域で自殺